

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 椿本和幸



11月20日開催 治水事業促進全国大会 牧野たかお 国土交通副大臣 祝辞

● 目 次

平成29年度 中国地方治水大会	1
平成29年度 九州地方治水大会	5

平成29年度 中国地方治水大会

と き：平成29年10月12日(木)
 ところ：広島市南区民文化センター

平成29年度 中国地方治水大会次第

(敬称略)

開会			
主催者挨拶	広島県副知事	高垣 広徳	
	全国治水期成同盟会連合会会長	岩井 國臣	
来賓祝辞	広島県議会議長	宇田 伸	
来賓紹介			
基調講演	気象予報士、防災士（NHK気象キャスター）	勝丸 恭子	
大会座長推挙	広島県安芸高田市長	浜田 一義	
治水事業概要説明	鳥取県県土整備部河川課長	酒本 勇一	
	島根県土木部河川課長	星野 充孝	
	岡山県土木部河川課長	安倉 俊雄	
	山口県土木建築部河川課主幹	坂本 和彦	
	広島県土木建築局河川課長	箱田 伸洋	
意見発表	広島県福山市長	枝廣 直幹	
	広島県三次市長	増田 和俊	
大会決議	広島県安芸太田町長	小坂 眞治	
次期開催県の決定	岡山県土木部河川課長	安倉 俊雄	
閉会			

■ 主催者挨拶



広島県
高垣副知事

平成29年度中国地方治水大会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、治水行政に携わっておられる多数の皆様をお迎えし、ここ広島の地において、本大会をこのように盛大に開催できますことを、心より感謝申し上げます。

また、御来賓の方々におかれましては、御多用の中、御臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年の我が国では、地球温暖化に伴う気候変動の影響等により、雨の降り方が局地化・激甚化しており、毎年、全国各地で大規模な水害が発生しております。

本県におきましても、平成26年8月豪雨では、広

島市で土砂災害が発生し、多くの尊い命が失われました。また、昨年6月豪雨では、福山市で多くの家屋に浸水被害が発生したところでございます。

本県では、平成28年3月に策定した「ひろしま川づくり実施計画2016」に基づき、計画的に河川改修等の治水事業を進めるとともに、市町の迅速な水防活動や住民の適切な避難行動に役立つ防災情報の充実・強化を図るなど、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策に取り組んでいるところでございます。

本日の大会を契機に、安全・安心な社会基盤の形成に向けて、治水事業が計画的に推進され、災害に強い国土づくりが促進されることを願っております。どうか皆様方におかれましては、今後とも、より一層のお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりますが、治水事業の更なる進展と御参加の皆様方の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、開会の御挨拶とさせていただきます。



全国治水期成同盟会
連合会
岩井会長

※挨拶は省略させていただきます。

■ 来賓祝辞



広島県議会
宇田議長

地元県議会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

本日、中国地方治水大会が開催されますことを、心からお喜び申し上げますとともに、本県へお越しいただいた皆様を心から歓迎いたします。

また、ご臨席の皆様方におかれましては、平素から治水事業の推進に多大なる御尽力をいただき、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、近年、日本各地で、台風や局地的な豪雨による甚大な水害や土砂災害が相次ぎ、住民の生命や財産に重大な被害を及ぼしております。

特に、中国地方は、花崗岩が風化した弱い地質が広く分布しており、土砂災害危険箇所数が、広島県、島根県、山口県の順で、全国の上位3位を占めるなど、災害が発生する危険性が高い地域であります。

このことから、河川、砂防等の防災施設整備はもとより、災害が発生する恐れがある場合の適切な情報提供体制の整備、地域住民の防災力の強化などを緊急かつ着実に進めることが、強く求められております。

こうした中、治水事業を計画的に進め、国土を保全し、安全・安心な地域づくりを目指すため、中国地方の治水関係者の皆様方が一堂に会し、意見交換や意思統一を図られますことは、誠に心強い限りであります。

どうか、皆様方におかれましては、住民の生命、財産を守るため、ソフトとハード両面の対策を含めた、自然災害に強い国土の構築に向け、より一層の御尽力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、本大会のご盛々と、御臨席の皆様方の御健勝を祈念して、お祝いの言葉といたします。

■ 基調講演



気象予報士、防災士
(NHK気象キャスター)
勝丸恭子 氏

※「いのちを守る気象情報にするために」というテーマで、気象予報士・防災士（NHK気象キャスター）の勝丸恭子様にご講演いただきました。

■ 座長推挙



安芸高田市
浜田市長

※広島県安芸高田市の浜田市長が座長に推挙され、大会の進行を行っていただきました。

■ 治水事業概要説明

※中国地方における治水事業の概要を中国5県の課長等から説明していただきました。



鳥取県河川課
酒本課長



島根県河川課
星野課長

岡山県河川課
安倉課長山口県河川課
坂本主幹広島県河川課
箱田課長

■ 意見発表

福山市
枝廣市長

※福山市の枝廣市長から、平成28年6月に発生した豪雨による災害の被災状況や被災後の対応状況、平成29年度の治水事業の取組とその成果等について意見発表がありました。

三次市
増田市長

※三次市の増田市長から、昭和45年に発生した洪水の被害の状況、その後現在に至るまでのハード面、ソフト面での防災への取組等について意見発表がありました。

■ 大会決議

安芸太田町
小坂町長

※以下の大会決議案を読み上げて提案し、承認されました。

治水事業は、国土を保全し、洪水等の被害から国民の生命と財産を守る根幹的な社会資本の整備であり、計画的かつ着実に実施することが重要である。

平成27年9月の「関東・東北豪雨」平成28年の台風10号による「北海道・東北地方の豪雨」、今年7月の「九州北部豪雨」などにより、全国各地で大規模な水害を受けたことから、あらためて、災害に強い国土をつくり、住民の安全・安心を確保することの必要性を強く決意したところである。

中国地方においては、治水施設等の整備状況は依然として低い水準にあり、治水事業予算が大きく削減されていることは、地域住民が安全で安心して暮らせる生活の実現にとって、憂慮すべき事態である。

こうした中、近年、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、記録的な豪雨による災害が頻発している。平成25年には島根県と山口県を中心とした豪雨による浸水被害が発生し、平成26年には広島市において大規模な土砂災害により、77名の尊い命が失われる甚大な被害が発生した。また、平成28年6月には、広島県福山市で破堤、溢水による浸水被害が発生し、10月には鳥取県中部地域を中心に震度6弱の地震が発生した。

このため、激甚な災害が発生した地域への再度災害防止対策はもとより、こうした災害を未然に防止・軽減するための予防的対策が不可欠である。あわせて、洪水等への災害安全性の向上によりストック効果を発現させ、生産性向上を通じて地域経済の活性化を促し、地方創生を実現するためにも、国土強靱化に資する治水施設の整備を強力に推進し、地域における安全性の確保・向上を図ることは重要かつ緊急の課題である。

また、高度成長期に整備された河川管理施設の老朽化が今後急速に進むことを踏まえ、施設本来の機能が十分に発揮されるよう、河川の適正な維

持管理等により施設の長寿命化を図ることの重要性がますます高まっている。

さらに、全国に比べ少子・高齢化が進む中国地方においては、情報化の進展に対応した、水害等に対する迅速かつ確な危機管理体制の強化を早急に図ることが必要である。多発する自然災害から生命財産を守り、安全で快適な生活環境を早急に実現し、さらに活力ある地域づくりを行って将来へ引き継いでいくことは、何よりも大切であり、治水施設の整備とともに、想定し得る最大クラスの洪水・高潮・津波を含めた、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保等、「水防災意識社会」の再構築を目指してハード・ソフト両面からの対応が急務となっている。

「川」は古くから地域住民の生活に深くかかわっており、地域に種々の恩恵を与え、その流域に独特の歴史や風土・文化を育んできたが、現在、人と水との関わり合いは希薄化しつつある。今一度、人と水との関わりを再構築し、自然と調和した健康な暮らしと、健全な環境の創出を推進していくことが重要である。

ここに、われわれは中国地方治水大会を開催し、その総意に基づき、「安全で安心して暮らせる地域づくり」を目指し、治水事業が強力かつ着実に推進されるよう、次の事項の実現について、国会並びに政府に対し強く要望する。

- 一 災害から生命・財産を守る治水対策は、国としての基本的責務であることに鑑み、洪水被害・土砂災害を未然に防止し、国民が等しく安全を享受するための国土強靱化に資する治水事業を強力に推進するため、平成29年度補正予算により緊急的な対策に必要な事業予算を確保するとともに、平成30年度治水事業予算の総枠確保・拡大を図ること。
- 一 気候変動に伴う水害の頻発・激甚化を踏まえ、地方創生を支える予防的治水対策の根幹である河川やダム等の整備を強力に推進すること。また、局地的なゲリラ豪雨に対し、河川・下水道が一体となった市街地の集中豪雨対策を推進すること。
- 一 頻発する水害、土砂災害に対する早期復旧・復興を図るため、災害復旧及び再度災害防止を徹底するとともに、大規模災害への危機管理対応

として、地方整備局が中心となって広域的・機動的な危機管理対策を充実させるなど、国が主体的な役割を積極的かつ強力に発揮すること。

- 一 沿岸部の河川においては、台風時の高潮により浸水被害が頻発しているため、高潮堤防、水門、排水機場等の高潮対策を強力に推進すること。
- 一 東日本大震災を踏まえ、津波による被害の発生を防止し、または軽減するための津波観測体制の整備充実、河川津波遡上区間や平坦地における堤防・水門等の耐震化等、総合的で効果的な津波対策を推進すること。
- 一 老朽化が進む河川管理施設について、計画的な点検、予防保全型の維持管理、施設の長寿命化対策など戦略的な維持管理・更新による既存施設の機能保全・強化を図ることが重要であり、公共施設等適正管理推進事業債や交付金の対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。
- 一 「水防災意識社会」の再構築のために、粘り強い構造の堤防整備等の危機管理型ハード対策や円滑な避難を促す警戒・避難情報の提供等のソフト対策など、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策を進めること。特に、想定最大規模の降雨に対するソフト対策の技術的支援を行うとともに、洪水時にリスクの高い危険個所の早期整備や交付金対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。
- 一 河川や水辺の持つ多様で豊かな自然環境の保全と、地域の歴史、風土等に根ざした河川環境の形成を推進すること。特に、川の営みを活かした川づくりを基本とし、良好な水際やみお筋の保全、川の連続性の確保等を行う多自然川づくりを推進すること。また、地域住民による河川愛護活動を支援するとともに、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を想像するための施策を充実すること。

■ 次期開催県挨拶

※次期開催県を岡山県に決定し、岡山県河川課安倉課長に御挨拶いただきました。

平成29年度 九州地方治水大会

と き：平成29年10月20日(金)
 ところ：ニューウェルシティ宮崎

平成29年度 中国地方治水大会次第

(敬称略)

第1部 記念講演

洪水対策と地域おこし

宮崎大学名誉教授

杉尾 哲

第2部 治水大会

主催者挨拶

宮崎県知事
 全国治水期成同盟会連合会会長

河野 俊嗣
 岩井 國臣

座長推挙

宮崎県河川防災協会会長

戸敷 正 (宮崎市長)

来賓祝辞

宮崎県議会議長

蓬原 正三

意見発表

宮崎市危機管理課長

杉村 廣一

大会決議

宮崎県河川防災協会副会長

池田 宜永 (都城市長)

次期開催県挨拶

大分県土木建築部河川課長

後藤 利彦

第1部 記念講演

「洪水対策と地域おこし」



宮崎大学名誉教授
杉尾 哲

※講演内容は省略させていただきます。

第2部 治水大会

■ 主催者挨拶



宮崎県知事
河野 俊嗣

宮崎県知事の河野でございます。

本日はお足元の悪い中ではありますが、本当に多くの皆様に、そして全水連岩井会長もご出席の中、九州地方治水大会をこうして開催できますことを大変ありがたく思っております。各県からお越しの皆様、心より歓迎をいたします。

台風21号が接近する中での治水大会ということになりました。

先程、杉尾先生の講演にもあったかと思いますが、本県のみならず九州においては、水害や様々な災害に見舞われてきておるところであります。

また、九州は昨年熊本地震に引き続き、今年は九州北部豪雨災害、そして台風18号の災害で多くの方が犠牲になり、また被害を受けられたところでもあります。

あらためて、心よりお見舞いを申し上げます。

近年は、本当にこういう度重なる水害、特に鬼怒川の災害以降の激甚化する水害というものに注目が集まる、かつてないゲリラ豪雨という表現とか、また線状降水帯というような気象の専門用語なども度々目にするところでもあります。

平成17年に、本県では台風14号の大変な被害がありました。

私は平成17年に、総務省からの出向でこの宮崎に来まして、最初に水害に直面した時に「もう、どう

なることか」と思った覚えがあります。

あの水害の被害も、現在、改修・整備が進められておりますが、これらの整備には、大変時間がかかるものだと感じますし、人命が失われれば何事にも代え難いものであります。

今、宮崎では新燃岳の噴火ということで、これは6年前に続いての300年振りのマグマの噴火ということです。

宮崎は、そもそも南海トラフ巨大地震、津波へのリスクということもあります。

6年前、私ごとで恐縮ですが、知事に就任した五日後にこの新燃岳が300年降りのマグマ噴火をいたしました。当時は、口蹄疫だとか鳥インフルエンザなど度重なる災害に見舞われており、就任の時に私は、「常在戦場」と言う言葉をもじって「常在危機」、常に我々は危機に直面しているのだという思いで取り組もうということ職員に申し上げたところであります。毎年の様に起こる水害や災害全般に対して、あらためて徹底をしていく必要がある、備えをしていくことが大事という思いをしております。

「水を治める者は国を治める」というような言葉がありますが、本県が去年の台風18号の直撃を受けた時に、北川において「霞堤」という先人の知恵が生かされております。この霞堤は、武田信玄考案の知恵だということですが、度重なる水害の歴史に際して、先人が様々な苦勞をした、そのことが今に生きている訳でありますし、将来に向けて我々としては、しっかりとした予算を確保しながら、やるべきことはやっていく、嵩上げ等を行うことによって確実にその災害被害、また浸水被害が減少したということをこの宮崎も実感をしたところであります。そういうことを確認する、また、声を上げていく、そういう大会であろうかと思うところであります。

皆さんと共に、少しでも減災に努めるよう努力をし、また国に対して財源の確保というものを強く呼びかけてまいりたいと思います。

現在近づいている台風21号への備えというものをしながら、しかもちょうど開票日に重なるということで大変心配をされるところであり、先程、県の定例会見の場で、是非、期日前投票をと呼びかけたところであります。投票もそうですし、開票作業の無事も祈りたいと思っております。

22日は、本県の綾町という所で照葉樹林マラソ

ンという催しで、私もハーフマラソンを走る予定にしておりますが、「マラソンどころじゃないな」という感じがしております。大会が開催されるかどうか分からない訳ですが…。

九州各県からお越しになった皆様、是非宮崎の美味しい食べ物、飲み物をご堪能いただければと思います。今日、そういう機会はあるのでしょうか、もう帰らなければという状況かもしれませんが、少しでも味わっていただければと思います。

他の県の皆さんを刺激する話ではありますが、本県には、3年連続で出荷額日本一の焼酎もありますし、和牛も、鹿児島・大分とか各県と熱いバトルをくり広げながら内閣総理大臣賞を受賞した宮崎牛というものもありますし、またそれ以外色々なものもございます。

こうした、あらゆる面で、九州各県のお互いが横の連携を深めつつ、備えを強めてまいりたいと思います。

最後に、今日のご出席に心からの感謝を申し上げ、また益々の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。主催者としての冒頭の感謝と歓迎のごあいさつとさせていただきます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。



全国治水期成同盟会
連合会会長
岩井 國臣

※挨拶は省略させていただきます。

■ 座長推挙



宮崎県河川防災協会会長
宮崎市長
戸敷 正

■ 来賓祝辞



宮崎県議会議長
蓬原 正三

本日、平成29年度九州地方治水大会が、本県において盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、多くの関係の皆様のご来県を心から歓迎申し上げます。

まずはじめに、7月の「九州北部豪雨」、そして9月の「台風18号」により、お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。また、被害を受けられました皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興を心から願っております。

本日御出席の皆様方には、日頃から治水事業を通じて、地域住民の生命・財産を守り、安全で安心な生活の確保に、多大なる御尽力をいただいております。深く感謝を申し上げます。

さて、私たちが暮らしております九州地方は、台風や豪雨に見舞われやすい気象条件に加え、都市化の進展、地形的な要因等により、洪水、土石流など多くの災害が発生し、幾多の尊い生命や財産が失われてまいりました。

特に近年は、局地的な集中豪雨による水害や土砂災害が、九州をはじめ全国各地で発生しておりますことから、河川改修をはじめとした治水対策を、今後も総合的に進める必要があると考えております。

どうか皆様方におかれましては、今後とも、治水事業の計画的で着実な推進に更なる御尽力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

宮崎県議会といたしましても、今後とも、真に必要な社会資本整備が一日も早く促進されるよう、全力で取り組んでまいります所存であります。

終わりに、本大会の今後ますますの御発展と、本日お集まりの皆様のご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いのごことばといたします。

■ 意見発表



宮崎市
危機管理課長
杉村 廣一

「南海トラフ巨大地震・津波に対する備え（ハード・ソフト対策）」について南海トラフ巨大地震の被害想定やそれに基づく避難施設や避難経路整備等のハード面、市民への啓発等のソフト面における取組を紹介いただきました。

■ 大会決議



宮崎県河川防災協会副会長
都城市長
池田 宜永

下記の大会決議案を読み上げて提案の後、大会決議が承認されました。

記

- 1 災害を未然に防止し、安全で安心な国民生活の確保を図るため、事前防災・減災対策を含む治水対策に充てる財源を確保し、治水関係事業費の増額を図ること。
- 2 全国的に大規模水害が頻発している現状に鑑み、被災施設の復旧にとどまらず、再度の被災防止のための改良を十分にできるよう、災害復旧関連予算等での対応の拡充を図ること。

- 3 平成29年度補正予算により、平成29年7月九州北部豪雨災害等を踏まえ、緊急的な対策に必要な予算を確保すること。
- 4 九州地方の現状を踏まえ、安全で安心できる国土を形成し、潤いとやすらぎのある水辺空間を創出するとともに、活力ある地域づくりに資するため、特に次の事項を強力に推進すること。
 - (1) 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、関係機関が連携した地域の防災・減災に資するハード・ソフト対策の一体的・計画的な推進
 - (2) 災害を予防し、地域社会の安全・安心を確保するための堤防やダム等の計画的な整備促進
 - (3) 平成28年熊本地震や、頻発する水害、土砂災害に対する災害復旧関連事業の着実な推進
 - (4) 大型化する台風に備えた高潮対策の推進
 - (5) 水の安定供給や河川の維持流量確保のためのダム等の整備促進
 - (6) 火山活動や地震・津波浸水に対する安全確保のための防災事業の推進
 - (7) 堤防・護岸、水門・樋門、ダム等の既存施設の機能を確実に発揮できる適切な維持管理や、老朽化した施設の計画的な補修・更新の推進
 - (8) 地域と連携した潤いとやすらぎのある水辺空間の創出に資する施策の推進
 - (9) 災害発生時の被害の最小化と迅速な復旧のための国による広域的かつ機動的な危機管理対策の充実
 - (10) 治水事業の重要性、緊急性と地方自治体の財政の現状に鑑みた地方への財政措置に対する特段の配慮
 - (11) 地域経済に対するストック効果を発揮する治水関連事業の推進

■ 次期開催県挨拶



大分県土木建築部
河川課長
後藤 利彦

次回開催県の大分県から、御挨拶いただきました。